

熱中症対策のお願い

連日の猛暑により各地で熱中症による救急車搬送等のニュースが多くなっています。各学校では夏休みに入り、部活動の練習も日中の暑い時間帯での活動が多くなるかと思えます。日本中学校体育連盟として、熱中症の対策として、下記のような取り組みをお願いいたします。

この夏、全ての生徒が健康で充実した日々を過ごし笑顔で秋を迎えるように、安全に注意した運動部活動をお願いいたします。

資料の朝日新聞と日本高等学校野球連盟が発表しました「熱中症への注意を」も参考にしてください。

記

【日々の練習において】

生徒たちに対し、小まめな水分補給、体調変化への気配り、無理に頑張りすぎないことなどの指導を徹底してほしいと思えます。

また、指導者は気象情報等に注意するとともに、休憩時間の確保、水分補給への声かけ、生徒の観察などを十分に行い、個々の生徒に応じた対応をお願いします。WBGT値によっては、活動を中止する判断も必要と考えます。

【大会において】

これから都道府県選手権大会、ブロック大会と大きな大会が続くこととなります。大会主催者として、熱中症予防の観点からの運営をお願いします。

〈選手・審判等競技役員〉

生命、安全を第一に守ることが基本になります。競技規則には反することになるかも知れませんが、競技会場の環境や気象状況から判断し、選手・審判・選手役員等への水分補給や休息時間の確保及び会場の換気や散水などを行う判断をお願いします。

〈観客・応援者〉

観客・応援者に対し給水の呼びかけを何度も放送や案内プラカード等で行ってください。帽子やタオル等で頭・首付近を覆うことの呼びかけも必要です。

また、気分が悪くなった場合は日陰に移動して休養することや大会本部に連絡することもアナウンスすることが必要です。

〈大会本部〉

下記のような準備・注意をお願いします。

- ・可能な限り冷房のある休憩室を確保
- ・WBGT値を測定する熱中症指標計を準備しデータの確認
- ・環境省熱中症予防情報サイト等よりデータ収集と今後の予測の確認
- ・体温計、血圧計の準備
- ・補水液、スポーツドリンク等の用意
- ・可能ならば、医師・看護師・養護教諭の準備

【資料】

地方大会の熱中症対策呼びかけ 朝日新聞社と日本高野連

2018年7月19日

朝日新聞社と日本高等学校野球連盟は19日、第100回全国高校野球選手権記念地方大会を開催している各都道府県高野連に対し、熱中症対策に万全を期すよう呼びかけた。選手だけでなく、観客、学校応援団に対しても十分に配慮するよう求めている。

「熱中症への注意を」と題した文書で、地方大会と全国選手権大会の取り組みを参考例として提示。2013年に40・7度を記録した甲府市がある山梨大会では、暑さ指数(WBGT=湿球黒球温度)と観測気温に応じ、打者及び走者がベンチに戻って水分を補給することや、通常の実行終了時に加え、七回終了時にも5分間、水分補給、休養の時間を設けていることなどを紹介。甲子園球場である全国大会では理学療法士が観客席前列に座り選手の様子をチェック、異常があればベンチ裏で対応することなどを伝えている。

「熱中症への注意を」全文

第100回全国高校野球選手権記念各地方大会の運営、ありがとうございます。今夏、日本各地は猛烈な暑さに見舞われています。各地方大会でも、応援団や観客の方など多数の人が熱中症で搬送されています。そこで、各地方大会の運営にあたるみなさんに、熱中症の対策に万全を期していただくようお願いする次第です。

参考までに夏の甲子園での大会や、すでに地方大会で行われている取り組みをお伝えします。これらをもとにするなどして、みなさまの地方大会に合わせた効果的な対策をお取りいただきますようお願いいたします。

①全国選手権大会での取り組み

- ・1日あたり14～18人の理学療法士が対応にあたっています。背番号入りのカップにスポーツドリンクと氷嚢（ひょうのう）を用意。体温計や血圧計の備えもしています。
- ・理学療法士は大会前に選手にアンケートをとり、選手の既往症などを把握します。試合中は療法士が観客席前列に座り、グラウンドの選手の様子をチェックしています。異常があればベンチ裏で対応にあたります。試合後は疲労回復を促すクーリングダウンを指導しています。
- ・観客に対しては球場のスクリーンに「こまめに水分補給をしましょう」などの注意を表示し、繰り返しアナウンスをしています。
- ・今年の第100回大会の開会式では選手を始め、吹奏楽、合唱、プラカードを持つ生徒らにもペットボトルを配布し、式中の飲料を勧めることを検討しています。

②山梨大会での取り組み

2013年8月に40.7℃を記録した甲府市がある山梨県高野連の主な取り組みを紹介します。全国選手権山梨大会では観測気温とともに、環境省熱中症予防情報サイトよりWBGT（湿球黒球温度）を得て試合開始時の指針とし、以下の対策を取っています。

- A. どの試合でも5回終了後のグラウンド整備で散水
- B. WBGT 28℃、観測気温 35℃の場合は
 - ・攻守交代の際、打者及び走者はベンチまで戻って水分補給
 - ・選手が十分な水分補給ができるまではグラウンドに出ることを促さない
- C. WBGT 31℃、観測気温 38℃の場合は
 - ・5回終了後のグラウンド整備に加え、7回終了時に5分間試合を中断し水分補給の時間を設ける
 - ・審判員もこの間は審判控室に入り休養や水分補給をする
- D. WBGT 34℃、観測気温 40℃の時には大会会長、副会長、委員長らを中心に別途検討
- E. 観客への呼びかけは都度、行う。水分補給と帽子を持っている場合の着帽とともに、具合が悪くなった場合は速やかに大会本部へ連絡をするようにアナウンス

学校応援団の熱中症とみられる症状も、多く発症しています。学校応援団に対しても十分な配慮をしていただくようお願いいたします。 以上

《暑さ指数（WBGT）》

人体と外気との熱のやりとりに着目し、気温や湿度、日射などから算出する指標で、環境省の熱中症予防情報サイトで公表されている。